

田原市立田原福祉専門学校同窓会機関誌

たっぷく だより

No.15

編集発行 平成24年3月1日
田原福祉専門学校同窓会
会長 松原 宣子



「ネバー・ギブアップ」

事務長 鈴木 正三



十一月十二日に本校へ佐野有美さんをお招きして公開講座を開催した。タイトルは「あきらめない心」、多くの方が聴講

してくださった。聴講後のアンケートに「笑顔」の二文字が感想として目立った。有美さんは豊川生まれ、チアリーダー、歌手として、また、ラジオのパーソナリティアシスタント等活躍されている方であると知って驚いた。身体的に、ハンディがあり、名刺交換の時も左足の指であった。講演中も終始笑顔で、どこからそんな笑顔が出てくるのか不思議なくらいであった。私が彼女のような状態ならとても笑顔は出せないと思う。小中高校と普通の学校に通学したと聞いて、お母さんや御家族の努力の賜物であると思う。将来は一人で東京に住みたいという希望を持っておられる。本校の学生も卒業後は、何事にもあきらめない心で希望を持ち、介護福祉士として、常に「笑顔」のある職場作り心がけ、活躍して欲しいと願っている。

事業所訪問

今回は一期生の西野優子さんが昨年「ケアプラン にしの」という事業所を開設したと聞き、お話しを伺ってきました。

インタビュアー：一期生 松原宣子



今日はありがとね。まずは仕事の内容を教えてもらえますか？

仕事の内容は、ケアプランの事業所なので、ケアマネ業務と後もうろろ…。

春に始めたばかりでまだそんなに仕事量は多くないから、いろいろやってみようかなと思って、今、仕事とは関係ないのですが、脳トレのサポートをやったりしています。

学習療法の話？

そうですね。

他には、いろんなところの事業所があったり立ち上がったたりするので、デイサービスに行つて情報を収集したり、新しく始めた人同士で情報交換したりしています。また、来年度の四月からたつぷくのヘルパー2級研修の講師の依頼をもらいました。メインはケアプランを立てること？でも施設とかにケアマネがいるよね。普通はその人達がやるじゃない？それをどうやって？

独立型なので、他にバックボーンがあるわけじゃないから、営業とかも必要になりますね。…

自分で行って？

自分で行かないとね。包括が主になるのですが、包括行って介護になった人とか、相談を受付けていたけど支援か介護かわからないような人、包括が受付たけど介護が付いたから、っていう人を紹介してもらったり、後はチラシをいくつか置かせてもらつてるからそれを見た利用者さんが飛び込みで来てくれたりとかします。

プランを立てて、そのサポートをするってこと？

そうですね。一般の人から直に来るときはどこに相談していいのかわからなくて来てる場合がほとんどだから、関わってみたら支援だったっていう人もいるし、その辺のところがかりから。大きい所だと介護保険の申請をして、認定が出たらまた来て下さいって言われちゃうんだけど、そこに一ヶ月掛かる。でもすぐに利用したいって言う人には、申請してどんな認定が出るかわからないけど、最低として、こういう所があるよ、お試し利用は認定が出てなくてもできるから、何箇所か行ってみて、決定が出たらここに本格的に行こうね、っていう下準備がこの一ヶ月間で出来るから、そのサポートはサービスとしてしているけどね。

現状としてはその一ヶ月間のサポートが抜けることが多いってこと？

多いですね。

それで立ち上げようと思ったの？

ん、そういうのとは違います(笑) 本当にね「独立しました」って言うのと「すごいね」とか「熱い思いを持って」とか言われますが、ただ単に家で仕事があったんです。私が一方的に子供のそばに居たいのが第

一で。上の子が三年生で、今までずっと働いていたから保育園や児童クラブに行つてたんだけど、うちの地域は四年生になるとどこにも行けなくなつてね。見てくれる人が誰も居なくなつちゃう。だからそのぐらゐのタイミングが自分の岐路かなと思つていたんだけど、でも仕事もしたい。何かいい方法は無いかなと思つていたときに、「独立型居宅をします」という先生の講義があつて「あ！そういうのがあるんだ」と思つていろいろ資料見てみたらなんか出来そうだなって…。

それで今年から事務所を建てて始めたっていうこと？

やろうと思うと色々な条件があつて、やれるかな？っていう思いもあつただけど、今までのキャリアも含めて、今の自分ならやれると思つた。

キャリアはホームヘルパー？

ヘルパー十年と、ケアマネ二年。

ヘルパーをやつてたから、家に入って地域のこともよくわかつていて、だからこそ出来ただね。

それもあると思う。経験と、物質的な条件と揃わないとやっぱ難しいのかなとは思つけど、たまたま自分はそれがやれたし、周りの理解や協力もあつたので。

周りの協力っていうのは家族？

うん、ホントにね、だれも反対しなかった。大丈夫か？とも言われなかった(笑)

私の実家に関しては、以前から子供は見えてあげるからできるだけ働きなさいって言うてくれていたし、今回こういう形にしようと思っただけの時も、母親として、お祖母さんとして孫のことをどうするのかと思ってたから、そうやって家に居て子供のことを見ようと思うなら良いんじゃないって。

今後の介護においてケアマネって重要だと思う？

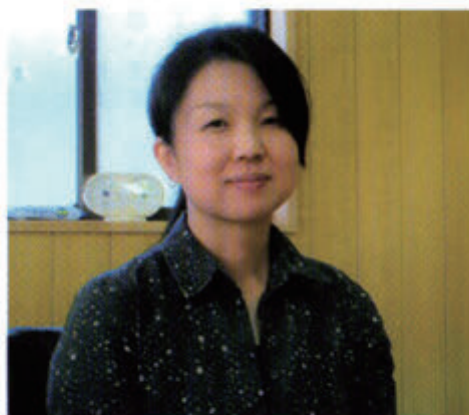
思う。ケアマネ自体の個人差っていうか、能力云々だとか考え方にすごい差がある。ヘルパーをやっていた時にいろんなケアマネさんがいるんだなあとは思っていたけど、ケアマネの裁量っていうか采配によって利用者さんのその後がかなり変わっちゃうなって。

ケアマネが広いネットワークを持っていることが重要ってこと？

介護のことはもちろんだけど、介護に関すること以外でどれだけ幅があるか。あれもあるよ、これもあるよって情報として引き出しをいっぱい持っていたほうがいいと思う。

その引き出しを作るために十年間い

一期生 西野優子さん



いろいろやったってこと？

自分の中ではヘルパーをやったことが一番大きいなって思う。施設とかデイとかで勤めていてケアマネをやった人って家の中に入れないって言うのね。失礼かな？...とか嫌がるかな？...とか思ってた踏み込めないって言うんだけど、私は地盤がヘルパーだから「見せて」って言うのが抵抗無いし、タイミンクってあるじゃない、最初のとっ掛かりのときに「いろいろ知りたいから見せて」って言うか、だいたいぶたって突然「見せて」って言うかで受け取り方も変わっちゃうからその辺はタイミンクの読みみたいなのが必要かな。そこがホームヘルパーと施設の違みたいなこと？

それも経験だと思う。相手の様子を見てここまで良いなとか、ここら辺で顔色変わったな、とか。

そういうのって、子育てをしているからこそ養われた部分もありそうだね。

利用者さんは在宅の人だから割と元気な人が多いんだけど、ケアプランの目標書くのに「何がしたい？」って聞くと「早く死にたい」って言う人もいる。早く死にたいっていうのも間違いじゃないと思う。最終目標がそれであるならば、それまでの間を、あの時は楽しかったねって言えるようにしていこうかっていう。その隙間を埋める、そこだよな。

プランや計画を立てるのも、メインの目標に対して短期目標・長期目標が出来るはずなんだけど、「じゃあヘルパーさんに入ってもらいましょうね。ヘルパーさんに何してもらおう？」っていうことがあって、それって順番が違うでしょ？その順番や隙間をきちんとやっていけて、それを上手く説明できれば、それがケアマネの仕事だと思うんだけど...考え方がなあ。

西野さんはその隙間をどうやって埋めるようにしてる？

私が今見ているその人がその人の全てじゃないっていうのがあるから、その人の可能性を探る方法は他にも

あるんじゃないかと思うようにしてる。

家族からも話を聞いたりってこと？
ただど家族とは話をしない人もいない？
情報がつかめない人もいない？

案外年をとると趣味とか変わっちゃう人もいるからね。何がツボなのかあって思う。だからデイサービスを利用して行ったら職員さんとの情報交換したりもする。年寄りだからっていうものじゃなくて、相手が変われば言うことも変わったりするでしょ。いろんな人と話をする中でこの前こんなこと言っていたよとか、こんなことしたらすごく盛り上がりたよとか、これが上手だったとか聞いて、じゃあ今度こっちでも取り上げてみようかなって。それが業務につながることもあれば、雑談で終わっちゃうこともあるけどね。

でもその雑談って大事だよな。雑談の中で「あれ？」って気付いたり見えたりすることがあるからね。

西野さんみたいに経験を積んだりした人を見て「何で上手くやれるんだろう」「自分とどこが違うんだろう」って思ったり、気付いたりする後輩たちが増えたとまた「いい介護」につながるかなって思う。

もう介護業界って数字が決まっちゃっているじゃない。後はその中でどうやって選ばれるかだよ。もう黙っていてもお客さんが来る時代じゃないから。そうすると必然的に質を上げるしかなくて、じゃあその時に自分が選ばれると思おうって。

私たちが卒業して十五年経っているわけだから、この辺りだともこの施設に行っても大体たつぶくの先輩たちがいるじゃない。その先輩たちの事も見ながら、「たつぶく卒業生はここがいいな」とか言ってもらえるような人になって欲しいし、先生たちもそういうふう育てて欲しいね。

対人関係が苦手だと思っていて、それでもこの仕事をするんだったらそれを乗り越える努力をしなければいけないと思うのよ。そういう人たちに何かアドバイスできることがある？

何だろうね、介護のプロです、介護福祉士ですって言う以前に「社会人一年生」だからね。その自覚を持って、社会人としての基礎を徐々にも良いから身に付けてねって言うところかな。

それは学生である二年間でっていうこと？

高校から進学してくる子が多いと思うんだけど、バイトをしていた

としてもやっぱりバイトとしての扱われ方しかしていないわけで、社会人になって責任を持ってっていうのは段々そういう立場になって育っていくものでもあるとは思いますが、少なくとも介護技術とかも含めて社会人として大人として扱っているのだから、大人として返して欲しい。介護の知識や技術を身につけるために学校に行っただらうけど、一般的な社会人としての最低限のスキルみたいなのは徐々に付けていかなければ、その後自分に返ってくるものが無くなっちゃう。自分よりスキルのある人から見ると、この子にはもって教えてあげたいって思う子と、この子には言っても無駄だろうなって思われちゃう子といるから、教えてあげたいって思われる子になって欲しい。

そうだね。そこは大事なところだと思えます。知識や技術だけじゃなくて、地域の方と関わったりすることで人間的なところをたつぶくで二年の間に育てて欲しいですね。西野さんも田原にいたので後輩たちを見たらエールを送ってください。

今日はありがとうございました。

《お知らせ》

同窓会総会を開催します

平成24年5月20日(日)

午前10時から

田原福祉専門学校 講堂にて

三歩 進んで 二歩 さが がる。



☆☆☆総会終了後に、

さつまいもの植え付けを実施します。☆☆☆

学校だより

● 在校生の声 ●

(16期生) 小浜涼香

二〇一一年三月に沖縄県立八重山商工高等学校を卒業し、四月から田原福祉専門学校に入学しました。

田原に来ての第一印象は、「とても自然が多く、菜の花がキレイな市」だと思いました。

専門学校に通って、最初は友達ができるか心配でした。でも今は、クラスみんなと日々切磋琢磨して仲良く学んでいます。

学生寮では、友達と一緒に料理をつくり、ご飯を食べたりして楽しく過ごしています。寮では、新入生歓迎会やクリスマス会などのイベントがあり、一年生と二年生が交流し、絆を深める機会もあります。他県の子も多く色々な文化の情報を交換することで、その県の様子を知ることができます。



著者 右側

昨春秋には専門学校が立地する地域のソフトボール大会やバレーボール大会に参加させていただきました。

大会後はバレーボールの練習にも参加させていただいており、とてもよくしてもらっています。田原の方々は優しく面白いです。関わっていても明るい気持ちになれ、地元にいるような感じがして落ち着きます。田原に来て良かったと思っています。

● 学校行事 ●

公開講座

平成 23 年 11 月 12 日 (土)

「あきらめない心」

講師：佐野有美氏

(「手足のないチアリーダー」著者)

本年度の公開講座は、豊川市在住で、先天性四肢欠損症、手足のないチアリーダーで話題を呼び、講演会、CD発売など精力的に活動をされている佐野有美さんをお招きし、講演をしていただきました。

彼女の笑顔に参加者みんな元氣と勇気をもたらすことでした。

二四年度も公開講座を開催します。下記の要領でアドレスを登録いただくことで御案内できますのでお願いします。

携帯電話(または自宅パソコン)のアドレス登録のお願い

この度、学校行事・同窓会行事等の連絡体制を整えるため、田原福祉専門学校メール配信システムができましたので御案内します。早速皆さまのアドレスを下記の方法で登録をお願いします。

一斉メール配信のシステムですが、卒業期別毎に配信が可能なシステムです。同期会などの開催のお役にたてることと思います。御協力をお願いします。

【田原福祉専門学校メール配信システム登録方法】

① 次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます。)

宛先：tahara.tchs@fofa.jp

件名：(記述なし)

本文：(記述なし)

②登録案内メールが届きます。(案内に従って操作してください。)

③完了メールが届きます。

※②の登録案内メールが届かない場合は、「fofa.jp」を受信許可ドメインに設定して下さい。



【田原福祉専門学校メール配信システム解除方法】

① 次のアドレスに空メールを送ります。(QRコードから読み取りができます。)

宛先：tahara.tchskaijo@fofa.jp

② 解除完了メールが届きます。(案内に従って操作してください。)



同級会を開催しました

卒業生同士が集まる貴重な場所である同級会。「開催したよ。」との情報を聞きつけ、楽しかった様子などを聞ききました。それぞれの期別に、毎年の開催は難しくても、卒業後何年という節目の時期にでも、是非機会をつくって、ステキな憩いの場、情報交換の場を持てると思いますね。



平成23年5月20日(金)に13期生の同級会が開かれました。

仕事の関係等で27人全員が集まることはできませんでしたが、半分近い人が参加してくれて、久しぶりに顔を合わせる事ができました。

お互いの近況や仕事の話などいろいろなことを話しました。卒業してから早くも一年が経ち、久しぶりに会ったのですが、学生の時に戻ったように楽しい時間を過ごすことができました。これからお互いに進んでいく道もそれぞれ違うと思いますが、



顔を見ることだけでも励みになると思うので、また集まる機会を作れたらいいなと思いました。

「たっぶく」で一緒に過ごした仲間の大切さを改めて実感できた日でした。

幹事さんありがとうございます

(寄稿 伊奈見和子)



昨年の10月14日(金)の夜、田原市内の居酒屋で14期生の同級会を行いました。当日は「たっぶく祭」

の第1日目ということで、就職で田原から遠く離れた人たちも何人か戻ってきていたため、思っていたよりも多くの人が集まる事が出来ました。

卒業生29人のうち集まったのは17人(男性5人、女性12人)。残念ながら仕事等の都合により出席が叶わなかった人もいたので、全員が揃うということにはなりませんでした。

この時期に同級会をしようと思いついたのは、卒業から約半年が過ぎ、そろそろ14期生の仲間と会いたくなる頃ではないかと思ったからです。ただ、何かきっかけがないと、特に田原から遠く離れている人は来る機会が持てない状況になるのではないかと考え、せっかく機会をつくるのなら、「たっぶく祭」が開催される日にちにと設定しました。

そこでは、飲んだり食ったりしながらいろいろな話で盛り上がりました。卒業後、それぞれの職場でのつらかったこと、楽しかったこと、そして、これからどうして行こうかという将来にむけての希望も話しました。

就職した施設のこと、仕事の内容に始まり、職場の雰囲気・人間関係、シフトのこと等仕事の話題が多かったです。私もそうですが、それぞれ介護の世界に入り、いろいろな

経験をしていく中で、壁にぶつかっているのかなとも感じました。

もちろんうれしいことばかりではなく、仕事をしていて利用者さんから感謝されたことや、楽しくコミュニケーションがとれたことなど、ほっとするような話もありました。

また、同級会の途中で、鳥取県に帰り就職した卒業生から電話があり、集まった人ひとりひとりとお互いの状況を語り合う場面もあり、とても盛り上がりました。

卒業してから初めての同級会でしたが、楽しい時間を過ごすことができました。これからも会を重ねて聞いていき、ひとりひとりの変化を知ることが出来る機会になればと思います。

(寄稿 中神祥次)



卒業生の職場レポート

介護の仕事、通所介護事業所に就いて私はこんな経験をしています

第14期生 大河 泰明

私はバリバリの介護系新卒1年生のスタッフですが、実習生やケアマネージャーさんからは、きっと利用者さんを見分けがつかないのではないかと感じています。服装も私服ですし、一緒に大笑いしていることが良くあります。良く言えば利用者らしい。悪く言えば溶け込んでいるとでも言ったところでしよう。

さて、これから介護現場に行く在校生の皆様、ほんの少し先を歩いている者として経験したことを、聞いてもらえたら少しは良いかなあと思います、現状を報告させていただきます。

初めは、こちらにも硬くなつてしまい、失敗はつき物です。最初に出会った方は六月の蒸し暑い中、二時間一緒に歩きました。たまたま一緒に草刈作業の途中でしたので、鎌を持って街を歩いたので。さすがにこれはまずいと思い、丁寧に話しましたが、言うことを聞いてくれません。しばらく歩いていきますと「ご主

人はどちらへ」と話しかけてきました。いつまでもついてくる私を不審人物と思われたのでしよう。馴染みの関係となった今は「先生」とか「親父」と呼んでくれます。歩行が不安定で手すりがないと一人では歩けない方でした。床に座ると私を思いっきり蹴飛ばすことができます。足が悪いから大丈夫だろうと思う先入観は危険であることを教えてくれました。いつも家の戸締まりが心配な彼女、確認の為に一緒に家に戻り、納得が行くまで家中の戸締りを確認していました。ところが、今日は、家の中に入つてすぐ内側から鍵を掛けました。外で粘っている私に「警察を呼びます。」と言われていきます。いつも同じようにはいかなないと教えてくれました。いつも同じ事を聞く彼女、午後になると「みんな帰ったの」と聞きます。

それを聞いた他の利用者さんが一斉に立ち上がり、バッグ

を取りに行きます。

その後はバタバタです。

日々の習慣というのは



オソロシイと教えてくれました。応用技術の習得も重要です。例えば畳の上に布団を敷いて休まれている方を、車椅子に移乗すること。学校で習っていないから出来ませんとは言えません。安全第一が最優先です。自分が頼りです。自信はないけど自信を持って行なうことはどんどん出てきます。

私は自分の経験したエピソードを話します。温泉旅行に行つて混浴風呂と聞いていたので入つてみると、同じ団体のオヤジばかりだったと話しますと、大笑いになります。皆さん自分なりに場面を想像して笑うのだと思います。その方のツボにはまったら大爆笑です。だからいつでも認知症の在るなしを区別していません。私はこのような高齢者との関わり方を大切にしたいと思っています。できれば丁寧な言葉使いで全ての利用者さんにケアがうまくなれること、それはすばらしいことです。身につける事は容易ではありませんが、絶対に必要な技術と思っています。しかし利用者さんはそれまで待つてはくれません。新人扱いはしてくれないのです。そして最もやっかいな感情の問題もあります。人間ですからお互いにいつも平静ではられないことがあります。そして利用者さん

の中には、その言葉や態度によって感情のスイッチが入り、こちらの意図していない緊張や不安を与えてしまうこととなります。その結果、予期せぬ行動をとらせてしまう事もありました。もちろん、その方の基礎情報やアセスメント等の情報収集不足もあります。

私が今、意識していることは勝手な解釈ですが、利用者さんや入所者の方々と馴染みの関係を早期に構築する上で、笑いが重要なファクターとなり得るのではないかと思っている事です。だから下手でもオヤジギャグや駄洒落、まじめな話の終わりにやや不真面目な落ちをつけるといったことをしています。徐々に自然な流れで円滑なコミュニケーションのある関係となつてきます。突込みが入ったりして好みや性格も分かってくるのです。相互の信頼感、安心感を深耕していく関係を狙っています。そしてスイッチの入りそうな行動や言語に気付いてきます。それが安全を担保していくことにつながっていくと思います。

誠にせん越な話になりましたが、どうか在校生の皆様頑張りすぎず、笑いの在る介護をよろしく願います。

たっぶく ティールーム



●オーナー 松原 宣子
●お客様(敬称略)
中神 祥次 伊藤 聖佳
岡 達也 佐藤 渉

○客—今日は、今の現場の問題や今後の介護の在り方など日ごろ感じていることを伺ってみましょう。どう一年たって？

○客—夜勤の時に寝てくれない利用者さんがいるので、その対応が慣れないですね。

○客—他にも夜間って怖いこともあるよね。グループホームで火事があったって亡くなった人いるよね。いざというとき、自分の判断が重要になってくるから怖いよね。

○客—何を優先するのか。

○客—避難か消火ですよ。

○客—もしも何かあった時の対応のために何か勉強とかしてる？

○客—なかなかそこまで出来てないですね。

○客—就職して一年目の3分の2が終わってどう？今までで、この仕事をしておいた良かったなあって思う？

○客—ちょっとしたことでも相手から感謝されたりすると、役に立っているなと嬉しく、やりがいを感じる。

○客—介護するってそういう言葉をたくさんもらうとやる気がでるね。

○客—利用者さんたちから出る言葉

が一番嬉しいよね。

○客—そうですね、職員間同士の会話も大事だけれど、患者さんが言ってくれた言葉や、いい変化が見られた時とか、すごくやっていていいなと思います。まだ少ないですが、嬉しいです。

○客—四年目でどう？

○客—普段何も言わない人がたまに話してくれたり、いつもと違う様子を見られるのが良かったかなあと思う。ずっと関わっていないとそういう瞬間とかが見られないので。

○客—相手が多分こうして欲しいのだからどうか、なんで怒るのだからどうか何でこういう行動するのだからとか絶対理由がある。本来の理由を考えることをしないで日常の流れで介護しちゃうけど、患者さんは日によって違うし、一日の中でも違う。

○客—これから介護士も増えて質が問われると思う。病院も施設もたくさんあるから、選ばれるように質を高めていかないとね。せっかくこういう学校(養成校)があるのに、卒業生を送り出しているだけではないのかな？卒業生たちが連携して何か新しいサ

ービスを立ち上げていくのもいいね。
○客—足りないサービスは今こそ補うべきだよ。

○客—その人の持っている能力や生きがいなどを作ってあげて、元気に充実した一日を送れるように。その人に沿った介護がないならば作ればいい。病院に入りたくなくて自宅にいたいと思う人も多いと思う。

○客—だから在宅サービスの拡充じゃないかな。訪問看護、入浴サービスなど。

○客—高齢者の人が出来ることをやる。デイサービスみたいに一箇所に集めなくても、畑仕事に行きたい人いる？とか、お昼を一緒に作る？とか、そういう場所の提供があれば元気にいきがいをもちて暮らせると思う。

○客—田舎にあるよね、老人の家とか。

○客—昔の助け合いみたいなね。一日中しゃべって帰るとか。介護士が、これだけ増えたのだから、そういうところを気遣



うことができる介護士になって欲しいなあ。その人の気持ちを察してあげるとその人は生きていて良かったと思うと思う。

○客—そうですね。認知症の人は、頭が物忘れで不安を抱えているので、言わないだけで、目で訴えているのがすぐわかる。認知症のことを学ぶことで、その人の行動が理解できるようになる。

○客—いかに励ますかも重要。その時にその人がやれることが最優先。

○客—自分の売りはどこと？

○客—思い浮かびませんね。

○客—これからの課題だね、どうしたらこの人たちが自分を指名してくれるのかって。指名が多いうことでいい介護士。相手によって、状況によって対応方法も変えなくてはいいけない。自分の役割が見えると仕事も楽しくなるからね。たっぶくの卒業生がいろいろ立ち上げて、ここを中心としてネットワークを組めばいいものができると思う。田原にある公立の学校だから田原市民にとって、この学校があつて良かったと思われ

ないといけない。地域密着でなければいけないと思う。地域の人と一緒に盛り返して、「ここは安心だよ」田原市に住みたいね」って思われるようにならないでね。